

黎明

題字は、校歌（玄閑掲額）より



令和4年 10月7日（金）

意気に感じて志新たに

本日は、後期生徒会役員・学級役員・専門委員の認証式を行いました。それぞれの役割に対して自らの意志で立つたことに敬意を表します。

「人生意気に感ず、功名誰かまた論ぜん」という言葉があります。任されたことを意気に感じ、失敗を恐れずに自分にしかできないチャレンジを試み、責任を全うすることを期待します。

続いて、新人大会（十月十四日・十五日・予備日十六日）の壮行会を行いました。各部代表からの熱い思いを込めた力強い言葉には、三年生への感謝の気持ちや自分たちが伝統を引き継いでいきたいという決意が感じられました。

月末には文化祭が待ち受け、合唱コンクールの練習も本格化します。一、二年生は新人大会へ、三年生は進路決定へ向かい、「志」を高く持つて各々のハードルを越え、大きくて美しい花を咲かせてくれることと思います。

【団体初戦（十四日）の対戦校／会場】

野球 菰野中／北条野球場

女子バスケットボール 西朝明中／富田中

女子テニス 山手中／市テニスセンター

男子テニス 海星中／同右

女子バレーボール 桜中／南中

サッカー 山手中／市中央フットボール場

校外活動（バドミントン） 個人戦（十五日）／川越中

ICTとコミュニケーション

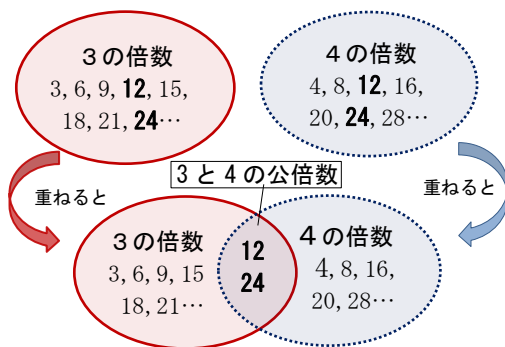
先日、水沢小学校で行われた五年生算数の研究授業を参観させていただきました。

ICT機器を活用し、公倍数という概念をベシン図（下記参照）とリンクさせて理解・認識させるというもので、中学校としても、大変、勉強になりました。

授業を見ていますと、人の知的活動は、コンピュータの「入力」「変換」「出力」の働きに似ていると感じます。それは、教師の説明や写真や図表からの「情報の読み取り」、思考による「整理・解釈」、意味や感じたことを「文章や作品に表す」という流れです。

今回、参観させていただいた授業からも、この流れにおけるICT機器の効果を改めて認識いたしました。今後も、様々な教科・領域を通じて、先進的な実践も十分参考にさせていただきながら、取り組んでいきたいと思えます。また、取り扱う内容の難度や生徒それぞれの実態により、独力での読解・解釈が難しいこともままありますが、それを助けるのがコミュニケーションではなにかと思えます。

対話から自分では気付かなかったヒントを得ることにより、豊かな学びが生まれるよう、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、グループによる学習も進めていきたいと考えています。



矛盾や葛藤と対峙して「日誌」から

三年生道徳では、歌舞伎の四代目 中村雀右衛門さんによる「無限の道」という教材をもとに、自らの信念や生き方について考えを深めました。自らの「今」や「将来」において「道」を切り開いていこうとする意欲を高めてくれたことと思います。

一年生道徳は、教材「最強の敵 最大の友」をもとに、高い目標に向かって切磋琢磨しあう二人（水泳の荻野公介・瀬戸大也選手）の心境に迫り、互いに信頼し高めあう生き方について、思考ツール（ベン図）を活用しながら自分の考えを広げ、深めていきました。

二年生学活では、がんを題材に心身の健康を保持増進するための生活態度や習慣について考えを深めました。二人に一人の割合でがんになる時代をどう生きるか、道徳の問題としてさらに補充・深化・統合していけるテーマではないかと考えています。

先月末、下校時の自転車の乗り方について心配のお電話をいただきました。大きな道に入る際に勢いで車道へ膨らんで侵入したようです。運転者の方のとなりの判断で接触は回避できましたが、まさにヒヤリハットでした。

また、Jアラート発動の報道があった今日四日には、学校にサルが出没し、緊急時への備えを再度確認する一日でした。

深まりゆく秋とともに天候によっては薄暗く感じることもあるかもしれません。今後子どもたちをお見守りいただきますとともに、お気づきのことがありましたらご一報願います。

